

甘木祇園山笠【あまぎおんやまがさ】



開催場所
開催日

須賀神社
7月1日・7月15日

【芸能の概要】

山笠神事は、江戸時代初期に疫病流行に際して御輿を作り、町中を廻り疫病祓いをしたことが始まりといわれている。6月30日飾山奉納、注連縄下し(市内7ヶ所)7月1日お汐いとり、お獅子入れ、8日～15日飾山笠(2台)、13日子供樽御輿(10基)、15日ひき山(東西から2台)。最終日の15日には、勇み肌の50人程がひき山の回りと、前後4本の棒に取り付き、後押し、伴走で東西に分かれ町内を威勢よく引き廻す。

【芸能の特徴】

約300年の伝統をもつ須賀神社の祇園祭・夏祭りの一環として行われており、戦争の影響で昭和20・21年は中止。翌22年より再開して今日に至っている。以前は飾り山も町内を廻っていたが、明治38年現鳥居建立のため小型のひき山に変え、昭和40年にはそれまでの所定コースの競争形式を止めて現在の姿になった。
ひき山の神社帰着後の手入れ(手打ち)は甘木手入れといわれ、特徴がある。

【使用する祭具・道具など】

飾り山笠は高さ10m余りあり、例年、表に武者物、見送りには童話物が多く、ラシヤに錦糸銀糸などを刺繍した豪華絢爛なものである。ひき山は高さ3m余りで木製の車輪がついており、50人ほどのかき手が威勢よくひき廻る。

・アクセス

西鉄甘木線甘木駅 甘木鉄道甘木駅より徒歩10分

・周辺の観光

秋月城跡、秋月郷土館、秋月キャンプ場、甘木公園、水の文化村、江川ダム、寺内ダム。
甘木バタバタ市(1月14・15日)、秋月春祭り(4月上旬)、甘木市民のまつり・邪馬台国 in あまぎ(5月中旬)、三奈木おくんち(10月22日)

・近くの特産品

フルーツ、水前寺のり、葛、草木染め、秋月焼。

